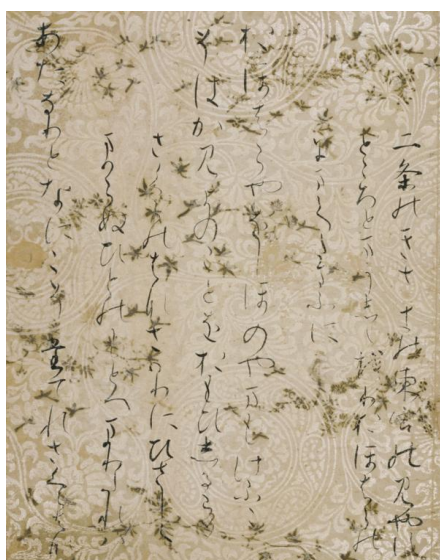




コレクション展  
「古筆切」 — ともに楽しむために —  
*kohitsugire*  
Ancient Calligraphy Fragments

2011年7月13日(水)～8月14日(日)  
[休館日] 月曜日

《コレクション展》 展示室1



歌切

おがたぎれ ふじわらのきんとう  
尾形切 伝 藤原公任筆  
平安時代 12世紀 根津美術館蔵

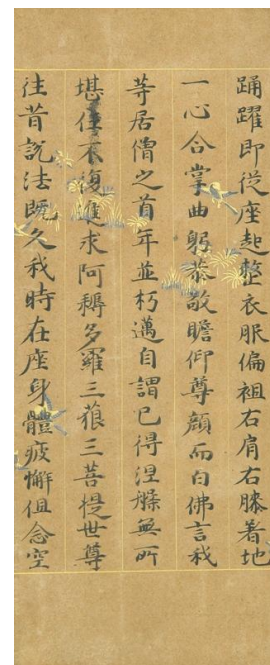
ほんがんにしほんさんじゅうろくにんかしゆう  
「本願寺本三十六人家集」(京都・西本願寺蔵)から江戸時代に流出した「業平集」1冊のうちの1頁分で、わずかに15葉ほどしか現存しない。「尾形切」の名は、尾形光琳の家に伝来したことにちなむ。紙の装飾と書の美しいハーモニーが見どころ。

古筆切とは、ふつう平安～鎌倉時代の貴族の贈答品であった「古今和歌集」や「和漢朗詠集」などの歌集の巻物や冊子が、1紙あるいは1頁、さらには数行に切断分割されたものを指します。室町時代以降、茶の湯の床に掛けるため掛物(掛軸)に表装したり、手鑑(過去の有名人の筆跡アルバム)に貼って鑑賞するために、切断されたものでした。このような歌切だけでなく、特定の古写経の断簡も経切として鑑賞されたので、ここではこれらも古筆切に含めます。

1巻・1冊を1紙ごと、頁ごと、数行ごとに分割することにより、ひとりが独占していた鑑賞の楽しみを数十人、数百人の人びとに分ち、ともに楽しむことができるようになったのです。現代の感覚では、文化財の破壊ととられかねない行為ですが、所在が分散したおかげで、幾多の戦乱や災害をくぐり抜け、たとえ一部でも今日まで伝えられたのは奇跡といってもよいでしょう。

名物切とよばれる古筆切には、所蔵者や分割の時や場所、書風や料紙の特徴などにちなんで固有名称がつけられました。本阿弥光悦が持っていた「本阿弥切」や、昭和3年(戊辰の年)に分割された「戊辰切」、金銀の箔で料紙を装飾した「箔切」など、名称自体がその古筆切の特徴や歴史を表します。

本展覧会では、根津美術館所蔵の、経切を含む約45件の古筆切の掛物、手鑑を展示し、それぞれの「古筆切」の命名の由来や切断の事情に思いを馳せ、古筆そのものの多様性や各切固有の美しさを鑑賞していただきます。

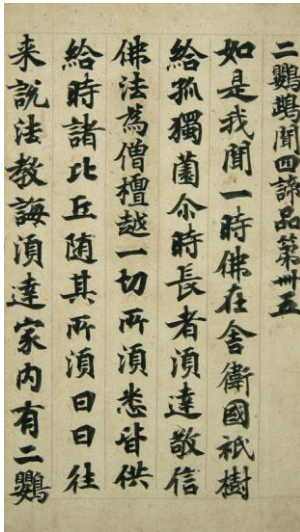


経切

ちやうとりした えきようぎれ こうみょうこうごう  
蝶鳥下絵経切 伝 光明皇后筆 平安時代 11世紀 根津美術館蔵

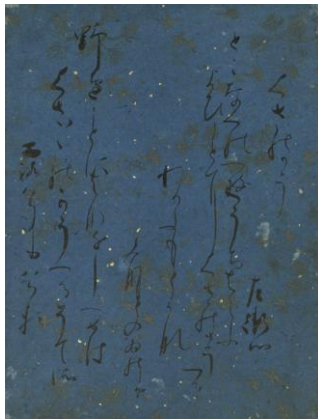
ほけきやう  
『法華経』の断簡。茶色の染料を吹き付けて染めた紙に、金銀の絵具で蝶・鳥・草花を描き、金で罫線を引いている。繊細で優美な書風を光明皇后の書と見立て、手鑑では「大聖武」の次に貼られることが多い。

展示室1



経切

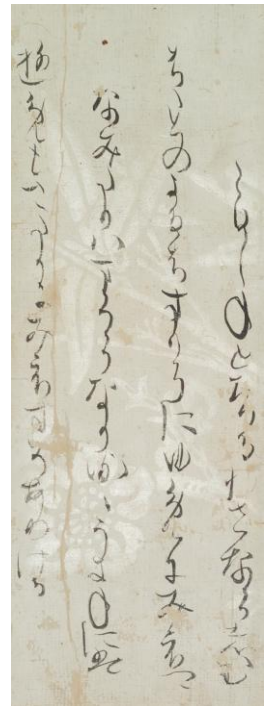
大聖武 伝 聖武天皇筆  
奈良時代 8世紀 根津美術館蔵  
『賢愚経』の断簡。通常の写経より文字が大きく立派なところから、仏教を深く信仰した聖武天皇の書に仮託される。手鑑の劈頭を飾る経切で、「大和切」とも呼ばれる。



岡寺切 伝 藤原公任筆  
平安時代 12世紀 根津美術館蔵

歌切

「尾形切」と同じように、「本願寺本」の「順集」から江戸時代に流出した36頁分のうちの1頁。大和の岡寺に伝来したものとされる。



歌切

本阿弥切 伝 小野道風筆 平安時代 11~12世紀  
根津美術館蔵 植村和堂氏寄贈

もと20巻の巻物に書写された『古今集』の断簡。名称は本阿弥光悦の所蔵にちなむ。中国から輸入された美しい雲母摺りの紙が用いられる。

-同時開催- 展示室2「水のある風景」

山水画や花鳥画には、水辺の風景を描いた作品が少なくありません。ことに滝は文人高士の理想の対象とされたため、中世の水墨画では「観瀑図」が重要な画題とされました。中世から近世初期の絵画作品の中から、滝や湖水など涼しげな水辺の風景を描いた作品を展示します。夏の暑さをしばし忘れていただければと思います。

(左) 重要美術品 周茂叔愛蓮図 伝 小栗宗湛筆  
室町時代 15世紀 根津美術館蔵

周茂叔は蓮の花を愛した北宋の儒学者。周茂叔が舟をうかべて蓮を愛でる様は、文人の憧れの境地であった。明晰な描線とすっきりとした墨色が、画面の清涼感を高めている。

(右) 重要文化財 観瀑図 芸阿弥筆・月翁周鏡他2僧賛  
室町時代 文明12年(1480) 根津美術館蔵

足利將軍家に同朋衆として仕えた芸阿弥(1431~85)の筆になる現存唯一の貴重な作例である。端正な筆致と堅牢な構図に、南宋の院体画を学んだあとがうかがえる。



展示室5「文字のある器」



三島禮賓茶碗  
朝鮮・朝鮮時代 16世紀  
根津美術館蔵

陶磁器には吉祥の字句を記して、文様にしたものや、詩文とその情景を描いたもの、また器を使用する官庁の名前や銘文といわれる制作年月日を記したしたものがあります。文字を意匠にした器の数々を紹介します。

展示室6「涼みの茶」



祥瑞水玉文茶碗  
中国・明時代 17世紀  
根津美術館蔵

盛夏の茶会には、夏の風物に因んだものや涼を感じる茶道具が選ばれます。青磁の透彫蓮花香炉、金属製の砂張水指、藍地に白い丸文が爽やかな祥瑞水玉文茶碗など、約20点を取り合わせます。

## [関連情報]

### 講演会 1 「古筆はなぜ切られたか？」

日時 2011年7月23日(土) 午後2時から午後3時30分  
講演 松原 茂(根津美術館 学芸部長)

### 講演会 2 「古筆の筆づかい」

日時 2011年7月30日(土) 午後2時から午後3時30分  
講演 神崎 充晴氏(センチュリーミュージアム 館長)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員140名

〈申し込み方法〉 往復はがきに、希望する「講演会1」または「講演会2」、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記のうえ〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「古筆切」展係にお申込み下さい。

「講演会1」は2011年7月9日(土)、「講演会2」は7月16日(土) 締切(当日消印有効)

※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

## ◆ギャラリートーク

7月15日(金)、7月29日(金)

※いずれも午後1時30分より約45分間イヤホンガイドを使って行います。

※当日先着30名様に限らせていただきます。

※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

## [開催概要]

- 【展覧会名】 コレクション展「古筆切 ーともに楽しむためにー」
- 【主催】 根津美術館
- 【開館期間】 2011年7月13日(水)～8月14日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日・展示替期間
- 【入館料金】 一般1000円 学生800円  
\*20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き  
\*中学生以下は無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円  
\*2011年5月28日(土)～7月3日(日)「伊万里・柿右衛門・鍋島」展 開催期間中、美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車  
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、  
B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536(代表)  
<http://www.nezu-muse.or.jp>

## [展覧会リリース、広報画像はホームページからもダウンロードできます]

【リリースPDF】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/>

【広報画像ダウンロード】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/download/>

### <次回展>

特別展

## 「名物名刀 ー宝物の日本刀ー」

2011年8月27日(土)～9月25日(日)

将軍家や大名家に宝物として伝わった名刀を集め、名物刀剣の発生と展開を一望します。

### <リリース・広報のお問い合わせ>

担当: 鎌倉/朝倉/白原

TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)